

1. 景気動向

DI値は依然として全業種においてマイナスで推移しており、厳しい業況は変わっていない。商業関係で若干マイナスポイントが減少にあり、わずかながら回復基調も見られるが、建設業と製造業で悪化の業況が増えており、主要業種の低迷により依然厳しい景況が続いている。

		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月	1~3月	4~6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		 29	 32	 23	 22	 0	 10	 32	 30	 9	 5
採算		 42	 42	 35	 34	 45	 40	 37	 29	 27	 14
資金繰り		 26	 21	 21	 22	 27	 30	 32	 30	 29	 19
業況		 39	 31	 25	 37	 11	 13	 45	 31	 18	 5
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	2位	請負単価の低下・上昇難		需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
	3位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇		需要の停滞		人件費以外の経費の増加	
業種別 コメント		<p>前回調査時に比べ14ポイント業況が悪化している。季節的な要因も影響していると思われるが、需要の停滞と共に請負単価の低下・上昇難が相変わらず問題点の上位に上げられており、今後の見通しも厳しい状況が続くことが予想される。前期までは生産設備を中心とした設備投資も今期は大きく減少している。</p> <p>また、来期の見通しも業況面で大幅に悪化すると見ている企業割合が高く、今後は粗利益幅が少ない中でいかに生産効率を高める等、利益を確保するための経営努力が益々必要である。</p>		<p>やや回復基調で推移していたが、再び全項目においてDI値のマイナスポイントが増加している。特に原材料価格の上昇が経営に大きく影響しており、今後の見通しも厳しい状況が続くことが予想される。前期までは生産設備を中心とした設備投資も今期は大きく減少している。</p> <p>また、来期の見通しも業況面で大幅に悪化すると見ている企業割合が高く、今後は粗利益幅が少ない中でいかに生産効率を高める等、利益を確保するための経営努力が益々必要である。</p>		<p>売上高の今期状況はDI値0となっているのに対し、採算と資金繰りは悪化傾向である。売上はそれなりにあるが企業間の価格競争の激化により、利幅が小さいというのが実態と思われる。</p> <p>消費者の購買傾向として極端に安いものが高値のものしか買わないという二極化が進む中で、従来の商品ではなかなか利幅が取れない状況となっている。業界全体で今後は商品の差別化や情報・ノウハウなどの付加価値をつけた営業戦略など経営革新が必要である。</p>		<p>全般的に厳しい状況ではあるものの、前期に比べDI値は改善してきている。例年に比べて気温が高く小雪に加えて好天の日が多かったため、冬物関連商品の売れ行きが悪かったが、卒業・新入学シーズンを前に購買意欲が少しずつはあるが回復傾向にある。来期見通しでは、少しずつ改善傾向にすすむが、まだまだ厳しい状況が続くと予想している。経営上の当面の問題として、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化への対応をあげており、多様化する消費者のライフスタイルにどれだけ対応するかがポイントで、消費者が自店を選んで来店頂き、商品を購入してもらう仕組みづくりが必要である。</p>		<p>暖冬の影響もあり、飲食関連では鍋ものなどの冬の主力商品の売れ行きが悪かったことや、引き続き原油の影響によるサービスへの転化ができない、金利上昇気運の中での資金繰りの悪化などにより、DI値が悪化傾向もあるが、業況は安定しており全体的には横ばいと、大きな変動はない。</p> <p>来期見通しでは、GWを迎えた消費行動への期待感から改善傾向がみられるものの、更なる原油の高騰による消費意欲の減退を懸念している見方もある。消費者の利用頻度をいかにして上げるかがポイントで、サービスの改善を心がけ、常にPR活動を実施するなど、消費者への訴求効果が必要である。</p>	



とくに好調
(50 DI)

好調
(25 DI<50)

まあまあ
(0 DI<25)

不振
(25 DI<0)

きわめて不振
(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。